
会社名 三光産業株式会社（7922）

説明内容 2012年3月期決算

説明要旨

- I. 三光産業のご紹介（初めてご覧になる方へ）
- II. 2012年3月期決算概要
- III. 今後の展開、2013年3月期業績予想

I. 三光産業のご紹介

◎事業目的及び沿革

当社は接着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの販売商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給のニーズが高まりだしたこともあり、昭和 42 年に方南工場、57 年に川越工場、60 年に大阪工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械や AV 機器関係へ用途を広げる中で、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVD といったソフト関係へ展開し、国内の事業基盤を固めてまいりました。一方、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和 63 年にマレーシア工場を、平成 13 年に香港に子会社光華産業有限公司を設立いたしました。また平成 15 年に中国深圳市に同社の生産委託工場を設置し、平成 19 年 2 月に同社の子会社として、深圳市に燦光電子(深圳)有限公司を設立いたしました。

◎当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTION ラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAX やコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。現在では携帯電話機、デジタルカメラ等のデジタル機器向け外構部品や付属機器にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約 4 万点、1 日の取扱い品目は 2,000 点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。

特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。

また、粘着剤やインクを扱うため環境問題には、特に注意を払っております。このため、ISO14000 の環境基準に準拠した製品作りを行っており、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

◎経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の基本方針を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できる様生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 無駄な組織を排除し、効率化を追求する。

これからも環境の変化にスピーディーに対応して、お得意先からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

◎当期のトピックス

2011 年 9 月 3D レンチキュラーの販売開始

2012 年 3 月 ガラス加工製品の売上、月商 1 億円を超える

Ⅱ.2012年3月期決算概要

◎ 損益計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	11/3 期		12/3 期		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額
売上高	9,648	100.0	8,463	100.0	△1,184
AV 機器関連	(2,251)	(23.3)	(2,286)	(27.0)	(34)
OA 機器関連	(3,926)	(40.7)	(2,958)	(34.9)	(△968)
その他電気機器関連	(2,092)	(21.7)	(1,863)	(22.0)	(△229)
輸送用機器関連	(723)	(7.5)	(641)	(7.6)	(△82)
その他	(653)	(6.8)	(715)	(8.4)	(61)
売上総利益	1,731	17.9	1,436	17.0	△294
営業利益又は営業損失(△)	7	0.1	△271	△3.2	△278
経常利益又は経常損失(△)	14	0.2	△204	△2.4	△219
当期純利益又は当期純損失(△)	△89	△0.9	△476	△5.6	△387

2012年3月期の業績に関しましては、前期と比べ減収となり、コスト削減に取り組んだものの、これを吸収しきれず、また減損損失による特別損失の計上等もあり、遺憾ながら最終赤字の結果となりました。

○ 売上高に関しましては、東日本大震災や円高の影響による国内大手メーカーの減産や海外への生産移転の影響をうけたことに加え、タイの洪水の影響を受けたことにより、OA 機器関連業種の受注量が大きく減少したことで、売上高は 8,463 百万円（前期比 87.7%）と減少いたしました。

- ・AV 機器関連は、日本国内においては震災や円高の影響により取引先の減産や海外への生産移管が進み、ラベル・パネル等の国内の受注量が減少したものの、海外での受注が増加したため売上高 2,286 百万円（前期比 101.5%）と堅調に推移いたしました。
- ・OA 機器関連は、日本国内においては AV 機器関連と同様に海外への生産シフトが続き、さらに中国での携帯電話やデジカメの旧機種への減産や量産終了により、売上高 2,958 百万円（前期比 75.3%）と減少いたしました。
- ・その他電気機器関連においては、コンピュータ用ラベル等の受注量の減少により、売上高 1,863 百万円（前期比 89.0%）と減少いたしました。
- ・輸送用機器関連は震災の影響による取引先の生産調整により受注量が減少し、売上高は 641 百万円（前期比 88.6%）と減少いたしました。
- ・その他の業種は、主としてアミューズメント関連の受注増加により、売上高 715 百万円（前期比 109.5%）と増加いたしました。

○ 売上総利益は、生産効率の向上に努めましたが、顧客企業の海外生産シフトによる売上高の減少および主に受注単価の低下による、粗利率悪化（0.9 ポイント）により 1,436 百万円（前期比 83.0%）となりました。

- 営業利益に関しましては、コスト削減を強力に推し進め、販管費は若干減少したものの売上高の減少により、売上高販管費率が悪化し、営業損失は 271 百万円（前期は 7 百万円の営業利益）となりました。

- 営業外では、前期計上されていた為替差損がなくなり、為替差益 4 百万円計上したほか、受取利息、受取配当金等の収入により営業外収支は改善し、経常損失は 204 百万円（前期は 14 百万円の経常利益）となりました。

- 特別損失および税金費用については、減損損失 200 百万円、法人税、事業税等 19 百万円の計上により、当期純損失は 476 百万円（前期は 89 百万円の当期純損失）となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	11/3 期	12/3 期	増減額
流動資産	(7,217)	(6,883)	(△333)
現金及び預金	3,265	2,784	△481
売上債権	2,854	2,845	△9
棚卸資産	812	1,056	244
その他流動資産	285	198	△87
固定資産	(4,312)	(4,305)	(△7)
資産合計	(11,530)	(11,188)	(△341)
流動負債	(2,005)	(2,309)	(304)
買入債務	1,545	1,845	300
その他流動負債	459	463	3
固定負債	(579)	(538)	(△40)
退職給付引当金	440	421	△19
その他固定負債	138	116	△21
負債合計	(2,584)	(2,847)	(263)
株主資本	(9,146)	(8,626)	(△520)
その他の包括利益	(△439)	(△509)	(△69)
少数株主持分	(239)	(223)	(△15)
純資産合計	(8,946)	(8,340)	(△605)
負債・純資産合計	(11,530)	(11,188)	(△341)

2012年3月期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当期末における流動資産の残高は 6,883 百万円（前年同期末 7,217 百万円）となり、333 百万円減少いたしました。これは、主に保険積立金の積立による支出 200 百万円、満期保有目的の社債の取得 209 百万円等により、現金及び預金が 481 百万円減少した一方で、棚卸資産が 244 百万円増加したこと等であります。
- 当期末における固定資産の残高は 4,305 百万円（前年同期末 4,312 百万円）となり、7 百万円減少いたしました。これは、主に有形固定資産が減損損失、減価償却費等の計上により 374 百万円減少した一方で、上記の社債の取得等による投資有価証券が 196 百万円、保険積立金の積立等による投資その他の資産が 192 百万円増加したこと等によるものであります。
- 当期末における流動負債の残高は 2,309 百万円（前年同期末 2,005 百万円）となり、304 百万円増加いたしました。これは、主に支払手形及び買掛金の増加 300 百万円等によるものであります。
- 当期末における純資産の残高は 8,340 百万円（前年同期末 8,946 百万円）となり、605 百万円減少いたしました。これは、当期純損失計上に伴う利益剰余金の減少 520 百万円のほか、その他の包括利益累計額の減少 69 百万円等によるものであります。

なお、自己株式の期末残高は、1,185,700 株、1,013 百万円であります。

自己株式の用途については、今後の事業戦略、資金需要に備え、適切に対応していく所存であります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	11/3 期	12/3 期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	625	4	△620
投資活動によるキャッシュ・フロー	△419	100	519
財務活動によるキャッシュ・フロー	△113	△56	56
現金及び現金同等物に係る換算差額	△55	△13	42
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	36	34	△1
現金及び現金同等物の期首残高	2,763	2,799	36
現金及び現金同等物の期末残高	2,799	2,833	34

当会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ 34 百万円増加し、当会計期間末には 2,833 百万円となりました。

当会計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は 4 百万円（前期比 620 百万円減）となりました。主な増加要因は、仕入債務の増加額 347 百万円、減損損失 200 百万円、減価償却費 238 百万円であり、主な減少要因は、税金等調整前当期純損失 467 百万円、たな卸資産の増加額 251 百万円等によるものであります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果獲得した資金は 100 百万円（同 519 百万円増）となりました。主な増加要因は、定期預金の払戻による収入 514 百万円であり、主な減少要因は投資有価証券の取得による支出 221 百万円の他、保険金の積立による支出 200 百万円によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により使用した資金は 56 百万円（同 56 百万円減）となりました。これは、主に短期借入れによる収入により資金は 192 百万円増加いたしましたが、短期借入金の返済による支出 203 百万円及び親会社による配当金の支払が 43 百万円発生したことによるものであります。

◎ 生産拠点（連結）

	印刷方式	生産実績(百万円)		12/3 期
		11/3 期	12/3 期	投資額(百万円)
方南工場	シール主体	377	358	22
千曲川工場	輪転機主体	325	286	—
川越工場	オフセット主体	587	616	—
大阪工場	シール・シルク主体	514	436	1
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	490	410	5
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	939	1040	39
三光プリンティング	シール主体	215	185	—
合計		3,447	3,331	

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国深圳工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、DVD 等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

2012 年 3 月期の自社工場生産額は、総生産額 3,331 百万円で売上高に対する生産比率は 39.4%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては当期グループ全体で 112 百万円であります。主なものは協力会社に貸与する機械装置 32 百万円、中国深圳の建屋改築及び機械設備購入に 39 百万円投資いたしました。

Ⅲ.今後の展開・2013年3月期業績予想

◎ 今後の展開

[短期トレンド]

当社グループを取り巻く経営環境は、国内においては、得意先メーカーの海外生産シフトによる国内受注の減少に加え、中国、マレーシアを中心とする海外拠点においても、現地ローカルメーカーとの競合による受注単価の低下等、引き続き厳しい状況で推移するものと思われま

す。
このような状況のもと、2013年3月期においては、新規分野のガラス加工製品及びタッチパネル関連製品の受注増で、一般シール・ラベルの受注減少の影響をカバーすべく積極的な営業展開を行ってまいります。

また、得意先メーカーの海外生産シフトによる一般シール・ラベルの国内受注の減少を、中国、マレーシアの現地法人を中心に、とりこぼしのない様、積極的な営業展開を行い国内受注の落ち込みをカバーしてまいります。

更に、得意先メーカーからのコストダウン要請に対応するため、自社・外注、国内・海外を問わず、コストダウン活動を継続し、必要に応じて生産体制を集約化する等、一段と経営効率重視の会社運営を目指して収益の拡大を図ってまいります。

[長期トレンド]

当社グループがメインとする家電業界は、製品のライフサイクルが短期化すると共に、価格低下のスピードが早まっております。また、部材の海外現地調達シフトによる国内市場の空洞化が進行しております。

この様な状況に対応する為、次の事項を基本戦略としております。

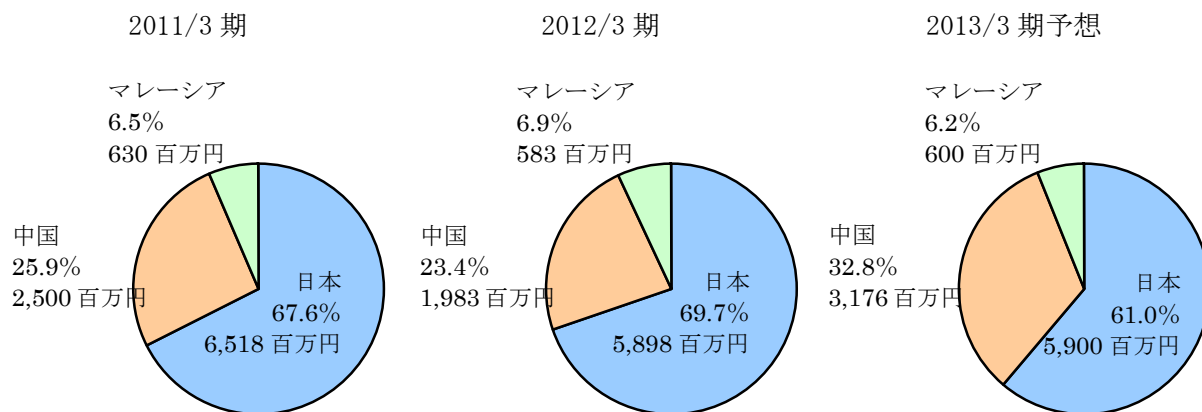
○中国展開

○タッチパネル関連部材の取扱いの拡大

○国内新市場の開拓

1. 中国展開

○地域別売上



中国展開については、これまで日系家電メーカーを中心に一般シール、ラベル製品を中心に事業展開を行ってまいりましたが、これに加え、携帯電話機向けアクリルパネル、ガラスパネル等取扱い品目を増加させ受注の増加を目指してまいります。

また、拡大する中国市場に対応するため、日系家電メーカーをターゲットとして、蘇州に営業所等の開設を検討してまいります。

2. タッチパネル関連部材の取扱いの拡大

- ・携帯電話機のアクリル窓の他、家電向け外観部品など手掛けておりますが、今後は扱ひ品目の多様化と顧客層の拡大を図ってまいります。
- ・技術面においては、ガラス加工、蒸着、成型、スタンピング等の技術が必要ですので、専門の外注先の組織化を進めてまいります。
- ・成型加工自体は個別対応を要するので、ユーザー毎のニーズにあった外注先を確保しつつ、付加価値向上のため一部内製化を図ってまいります。



2013年3月期においては、

- ・中国市場を中心に携帯電話機、スマートフォン、タブレットPC、カーナビ、デジタルカメラ向け等のフィルム、アクリル樹脂加工品、ガラス加工品の受注拡大を目指し、営業活動を積極的に行い受注の拡大を目指してまいります。また、これらガラス・タッチパネル関連製品については、2億円/月規模の売上寄与を見込んでおります。

3. 国内新市場の開拓

- ・国内需要が見込めるその他の業種のうち、医療、アミューズメント、玩具景品等の分野については、受注方式を維持しつつ、当社オリジナル企画機能も組み込んで付加価値向上を目指してまいります。

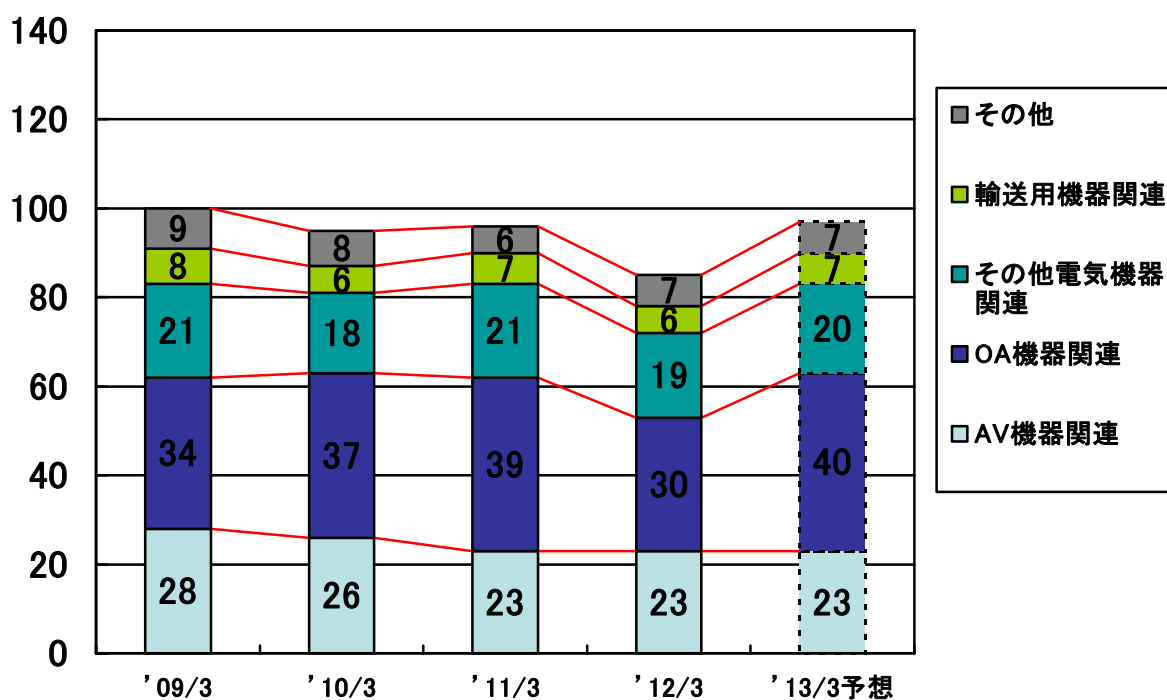


- ・2012年3月期において、医療分野につきましては医療機器メーカー、専門商社等から継続案件として受注を獲得いたしました。
- ・LED照明用「絶縁シート」等、住設関連製品の受注を獲得いたしました。
- ・従来の非接触ICカード用の「きせかえシート」に加え、3Dレンチキュラー等バラエティーグッズとして商品強化に取り組んでいるものの、現状、受注は伸び悩んでおりますので、引き続き営業活動を強化して拡販に取り組んで参ります。

◎ 2013年3月期の業績予想について（連結）

業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



当社グループの今期の取組みといたしましては、既述の長期経営戦略を基本としつつ、加えてローコスト体制の確立により、一段と経営効率重視の会社運営を目指してまいります。

中国展開におきましては、燦光電子（深圳）有限公司を中国における製造拠点として生産能力の強化と技術力の向上を図り、収益の拡大を目指してまいります。

また、国内市場においては、今後とも国内電機メーカーの海外生産シフトは続き市場の縮小が予想されますが、当面ガラス加工品・タッチパネル関連製品を収益の柱とし、この分野へ注力することで収益の落ち込みをカバーしてまいります。

次期の業績見通しにつきましては、連結売上高 9,676 百万円、経常利益 12 百万円、当期純損失 16 百万円を予想しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

以上